

2019年9月9日(月)

老球の細道499号

全国高校選手権大会(WC) 予選開幕に思う

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「ウインターカップ」の愛称で親しまれてきた全国高校選手権大会(元全国高校選抜優勝大会)会津地区予選会が今週末から開催される。2017年からJBAの改革により名称が変更されたが、そもそも元になった「選抜優勝大会」は私が高校2年生の時(1971年)に第1回大会が開催されたのである。当初は新人大会の全国大会版だった。それまで新人戦は県大会以上の大会はなかったので画期的な出来事であったのを記憶している。

当時の新人県大会は非常に狭き門で、大会には9チームしか参加できなかった。5地区の各地区1位5チーム、前県大会の3位を出した地区から3チーム、そして開催地区1チームだった。3チームで3つの予選リーグを行い、各リーグ1位3チームで二日目に決勝リーグを行って優勝を決めていたのである。

私(会津高)は運よく地区1位で出場することができ、県大会は決勝まで進んだ。直前の県総体が1回戦敗退だったのでミラクルだった。決勝は相馬高校と対戦。超高校級と称された村山選手(早稲田大学一日立)にことごとくシュートを沈められ9点差で負けた。

その後、初の全国選抜大会の予選となる第1回東北新人大会が福島市で開催された。私は県2位だったので出場できると思っていたが、当時は県1位しか参加できなかった。東北大会では相馬が決勝戦まで進み秋田の大曲工業に惜敗し準優勝。全国大会は東北1チームだったので歴史的な第1回大会に福島県代表は出場できなかった。東北地区からは前年インターハイ全国優勝の能代工業が推薦枠で秋田県から2チームが出場したのである。

第1回全国選抜優勝大会は男子が東京明大中野高校、女子は秋田大曲高校が優勝した。男子の明大中野高校には現在テレビ解説で活躍する北原選手がおり圧倒的な強さを発揮した。余談だが当時この明大中野に福島の保原高校が遠征試合に行っていたのには驚いた。

選抜優勝大会、通称“春の選抜大会”は野球、バレーボールに負けるなということで1971年3月に誕生した。当初は当時バスケットボールの聖地と呼ばれた「国立代々木競技場第二体育館」(1964年東京五輪会場)で開催されていた。3,000人位の収容人数しかなかったため、最終日の決勝戦はいつも館内は超満員だったことが思い出される。

その後、テレビ放映や高校3年生をできるだけ長く競技させるようにとの理由で第19回大会(1988年)より現在の冬開催に変更された。と同時に、それまでは出場チーム枠が東北地区は2チームの狭き門で、能代工業、日大山形、仙台、弘前実業などの独占状態で福島県のチームは出場困難だった(女子も同じ)。それが「ウインターカップ」と呼ばれるようになってから出場チーム枠が各県1チームになり現在に至っている。会場も聖地「代々木第二体育館」からより収容人数を確保できる「東京体育館」に変更になった。

今年で50回を迎えるこのウインターカップ(高校選手権72回)にわが会津地区から出場経験のあるのは2012年第43回大会(広島開催)の若松商業男子のみである。現在会津工業の阿部哲先生が率いて、選手は全員地元出身の地産地消。会津地区でも優秀な指導者の元で、ミニ、中学できちんと鍛えられた選手たちが他地区に流れないで地元に残れば全国も夢ではないことを実証してくれた。

老人はいつも過去を懐かしみ夢を追う。会津地区の夢よもう一度。